

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

熊本大学は、教育力と研究力で我が国を牽引する真のグローバル大学を目指し、地域のグローバル化を牽引するとともに、世界レベルの研究拠点大学としての地位を確立することを目的として、以下の取組を実施した。

1. 大学ガバナンス改革

本事業を核とした本学のグローバル化推進のため、H27年3月に「グローバル推進機構」及び「SGU推進本部」を設置し、学長特別補佐に外国人教員を任命した。また、H27年4月に「大学戦略会議」、更に「大学情報分析室(IR室)」を設置し、H28年度には外部委員会「熊本大学グローバルアドバイザリーボード」を開催。また、H28年度には大学教育統括管理運営機構を設置し、H30年度には、全学のグローバル化の中核組織であるグローバル推進機構長を学長から国際交流担当副学長へと変更した。また、年俸制の導入はR2年5月1日時点で572人(54.7%)とR5年度目標300人を達成し、テニュアトラック制の導入もR1年度目標16人に対し18人と順調に増加、R1年度には教員の業績評価の実施と処遇への反映に関する基本方針を策定し、優秀な外国人教員を受け入れる環境整備が進んだ。

2. 国際通用性の高い学部教育のグローバル化

○グローバル教育カレッジの創設:H27年3月にグローバル教育カレッジを設置、H28年3月に専用棟を開所した。H29年度は英語による教養教育科目「Multidisciplinary Studies」を新設して全学への提供を開始し、R1年度には13科目49テーマで延べ1,550人が受講。また、地域社会への早期グローバル教育や国際交流の機会を提供している。

○グローバルリーダーコースの設置:学部教育のグローバル化を推進するため、H29年度にグローバルリーダーコースを文学部・法学部・理学部・工学部に新設。AO入試やLate Specializationが可能なカリキュラムを導入している。

○教務システムの国際通用性:「熊大FleCS」として「4ターム+夏期1ターム」の5ターム制を導入し、R5年度目標の13学部での導入を前倒しで達成した。また、科目ナンバリング実施100%、シラバスの英語化85.2%、GPA導入100%、授業アンケート実施100%となり、R1年度の英語による授業科目は836科目(15.6%)で目標値を達成している。また、工学部及び理学部においてLate Specializationを導入した。

○日本人学生の留学:①交換留学②短期海外研修プログラム③国際奨学事業④「トビタテ!留学JAPAN」(第1~12期で86人採択、国立大学の中で11位)⑤グローバルリーダーコース独自の短期留学プログラムを実施し、通年の留学経験者数はH26年度の517人からH30年度は843人に増加。(R1年度は新型コロナウイルスの影響により減。)

3. 世界最先端の研究を支える大学院教育のグローバル化と先鋭化

○外国語による授業科目:大学院ではH25年度の345科目からR1年度は657科目と増加し、R1年度目標を達成。

○海外連携教育コース:ダブルディグリープログラム締結は博士(博士後期)課程16校、修士(博士前期)課程4校となり、R5年度目標の20コースを達成している。また、R3年4月には、大学院社会文化科学教育部にマサチューセッツ州立大学ボストン校とのジョイントディグリープログラムの設置を決定した。

○国際先端研究拠点:H27年度に国際先端医学研究機構(生命科学)、H28年度に国際先端科学技術研究機構(自然科学)、R2年度には国際人文社会科学センターを設置し、3つの分野において、先駆的な国際共同研究や異分野融合研究を推進する学術研究体制を構築した。

4. 外国人留学生に対する多様な受入れ体制の提供

○留学生の受入:①交換留学②短期留学プログラム(サマー/スプリング、日本語/英語コースを整備)を実施。通年の留学生数はH26年度の895人からH30年度は1,253人となり、R1年度の目標値を前倒しで達成した。また、留学生チューター制度、グローバルワンストップサービス等によるサポート体制や、混住型学生寮を整備した。また、初心者から上級者やビジネス向け、更に留学生等の家族向けなど、多彩な日本語教育プログラムを開発・提供している。

○就職支援:「留学生就職促進プログラム(CDP+K)」において、ビジネス日本語、キャリア教育、インターンシップ、就職セミナー等の支援を実施し、H29年度からR1年度かけて65名(うち県内26名)が日本国内で就職した。

○海外アドミッション・オフィス入試:マレーシア、中国(山東大学)、モンゴルにおいて、工学部の国際編入学試験を実施し、H26年度からR1年度までに49人が入学した。また、ベトナムでのAO入試(R4年度入学)実施を予定している。

○教職員の高度化:H26年度からR1年にかけて、教員の英語による教授力向上のためのFD研修を実施し、海外派遣型に12人、招へい講師やグローバル教育カレッジ教員等による研修に153人の教員が参加した。また、事務職員等のSD研修には、海外派遣型研修に延べ19人、英会話研修やeラーニング研修等に延べ342人が参加した。

5. 世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供

○熊大グローバルYouthキャンパス事業:H27年度からR1年度までに延べ4,274人の中高生に、早期グローバル教育及び国際交流の機会を提供した。また、H28年熊本地震の際は、留学生と日本人学生が協働で被災者ストレス解消イベントを開催し、地域住民も含め延べ269人が参加するなど、地域のグローバル化を牽引している。

1. ガバナンス改革

本事業を核とした本学のグローバル化推進のため、H27年4月に学長及び常勤理事等で構成される「大学戦略会議」を設置した。その下には、重要事項の意見調整を行う「政策調整会議」が設置されており、大学戦略会議とともに、迅速な意思決定の実現を可能としている。また、H27年3月に全学のグローバル化の中核組織である「グローバル推進機構」及び「SGU推進本部」を設置し、学長特別補佐に外国人教員を任命した。H28年度には「熊本大学グローバルアドバイザーボード」を設置し、国際的視点を踏まえた大学運営体制を確保した。更に、H30年度には、グローバル推進機構長を学長から国際交流担当副学長へと変更し、より実務に近い副学長の指揮により、グローバル化に関する取組の管理・点検・評価に集中できる体制とした。

また、第3期中期目標・中期計画の立案においては、本構想の目的及び各指標の達成目標を反映させる形で各目標・計画を策定し、H30年度には学長戦略経費に「国際化推進経費」を新設して、各部署の国際化に関する優れた取り組みを重点的に支援するなど、全学的なグローバル化を推進する体制を構築している。

また、年俸制の導入はR2年5月1日時点で572人(54.7%)とR5年度の目標300人(28.6%)を前倒しで達成し、テニュアトラック制の導入もR1年度目標16人に対し18人と順調に増加、R2年度には「熊本大学における教員の業績評価の実施と処遇への反映に関する基本方針」を策定するなど、外国人教員の受入を促進する体制も整備された。

2. グローバル教育カレッジの創設

本学の教育のグローバル化を推進する新たな教育組織として、H27年度にグローバル教育カレッジを設置し、専用棟を開所した。グローバル教育カレッジには2人の専任教員、5人の特定事業教員を国際公募により採用し、H29年度には英語による教養科目「Multidisciplinary Studies」を新設し、日本人学生と留学生が共に授業を受けるユニークな取組を全学に展開している。また、多様な留学プログラムの開発や「IELTS講座」の実施等、日本人学生の留学を促進する取組や、「熊大サマー/スプリングプログラム」及び多彩な日本語教育プログラムの提供等、留学生の受入を促進する取組を実施している。更に、学生・教職員を対象とした語学力向上のための「english-TALKmon」の実施、地域社会への早期グローバル教育及び国際交流イベントの提供、外国人留学生や研究者の家族を対象とした日本語講座など、本学のみならず、地域社会のグローバル化を牽引する取組を実施している。

3. グローバルリーダーコースの設置

国際通用性の高い学部教育のグローバル化を、単一部局に集中するのではなく、全学へ横断的に推進するため、H29年度4月に4学部(文・法・理・工)にグローバルリーダーコースを設置した。本コースは本学の前身である旧制五高の伝統と精神を受け継ぐ「GOKOH School Program」を中心として、入学前セミナーの「Pre-GOKOH School Program」、教養教育及び専門教育で構成された「グローバル学修プログラム」、そしてクリティカル・シンキングや国際対話力及びリーダーシップを培う「グローバル課外教育プログラム」等で構成され、また、本コース独自の海外留学プログラムや海外インターンシップ等を通して、グローバルに活躍できる人材の育成を目指している。また、対象とする4学部において、Late Specializationが可能となる制度設計となっており、H28年度に本学初めてのAO入試を実施、R2年度までに170人が本コースに入学している。

4. 海外連携教育プログラムの推進

ダブルディグリープログラム締結は博士(博士後期)課程16校、修士(博士前期)課程4校となり、R5年度目標20コースの設置を既に達成している。また、H27年度からR1年度までに、受入学生7人、本学からの派遣学生2人がダブルディグリープログラムを修了した。更に、人文科学系分野においてはジョイントディグリープログラムの開発が進み、R3年4月に、大学院社会文化科学教育部に「熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻」を設置することが決定しており、日本人学生に対するグローバル教育環境の整備・強化、海外からの優秀な留学生確保など、質の高い学生交流の枠組みの開発が進んでいる。

5. 熊大グローバル Youth キャンパス事業の展開

本事業は、グローバル教育カレッジが中心となり、熊本県内の中高生へ早期グローバル教育を提供する取組であり、本学外国人教員による中学校・高校への出前授業、留学生による学校訪問、また、国際交流イベント「留学生とMeet & Greet」、留学体験発表や国際交流を行う「サマー・フェスタ」等、多彩なプログラムを実施してきた。参加者数はH30年度に延べ1,453人と、5年度目標の700人を大幅に超えて達成し、H26年度からR1年度にかけて延べ4,274人の参加があった。また、H30年度には新たに「高校生のためのグローバルリーダー育成教育プログラム(肥後時習館)」を試行的に開講するなど、さらなる拡充を図っており、地域の中等・高等教育及び地域社会のグローバル化へ貢献している非常に優れた取組と言える。